

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はやや弱含んでいる。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年5月)	今回(平成20年8月)	
景況判断	やや弱含み	弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	やや弱含み	
観光	やや減少	弱い動き	
個人消費	弱含み	弱い動き	
住宅建設	増加	大幅に減少	

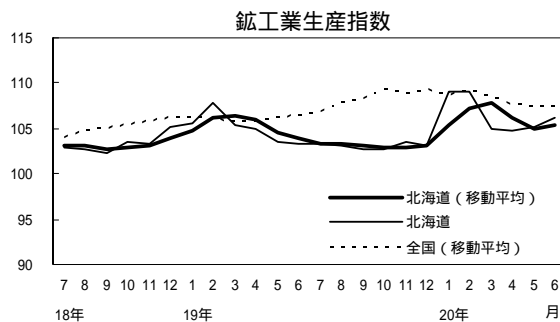
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。

4～6月期は、生乳生産は、牛乳等向けは伸び悩んだものの、乳製品向けが増加したため、総量では996,392tと前年比3.4%増となった。水産業(主要8港)は、するめいかは前年を下回ったものの、ほっけが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はやや弱含んでいる。

食料品・たばこは、発泡酒で新製品の生産が好調だったことから、増加している。パルプ・紙は、新聞巻取紙の生産が低調だったことから、減少している。鉄鋼は、自動車向けの特種鋼は好調だったものの、建築用の普通鋼は低調だったことから、減少している。電気機械は、携帯電話が夏モデルの国内向けで好調だったものの、モス型半導体が国内外向けのデジカメ向け等で低調だったことから、減少している。金属製品は、公共投資を始めとした建設案件の減少を背景に、橋りょう、鉄骨、鉄塔等が低調だったことから、減少している。



#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品	23.9	3.4	1.1	0.6	3.6
パルプ・紙	10.7	1.0	4.0	3.1	6.9
鉄鋼	8.6	3.1	2.6	7.5	7.9
電気機械	8.4	6.8	3.9	4.2	8.1
金属製品	8.0	4.6	17.9	16.3	4.6
鉱工業	100.0	4.5	2.1	1.0	3.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

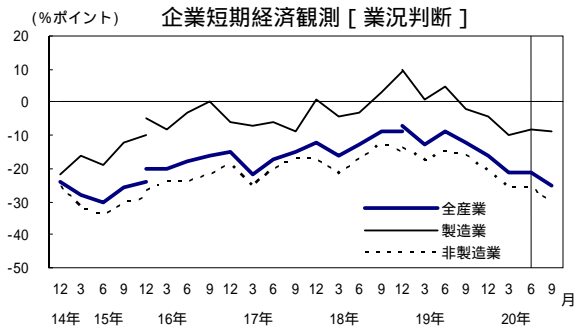
2. 4～6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

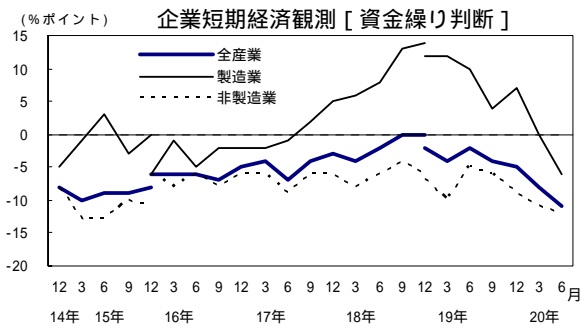
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

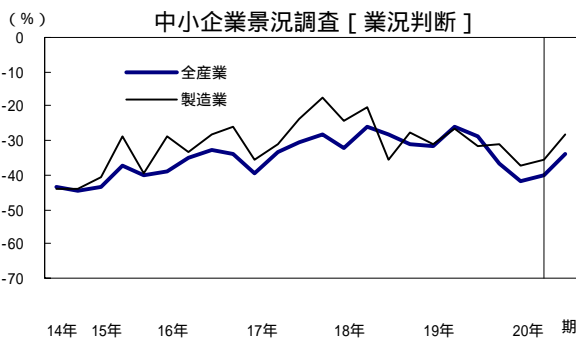
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

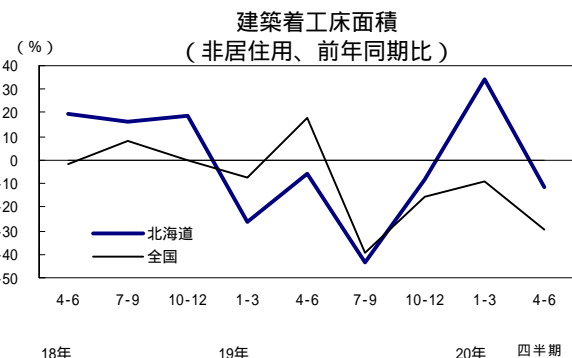
「建築物件の減少、資材・燃料費の高騰、公共事業の減少、談合に伴う業者指名停止等から、建築業界はどかが倒産してもおかしくない。道内の大手建設会社が倒産し、中小企業や一部大手にもうわさが出ている(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

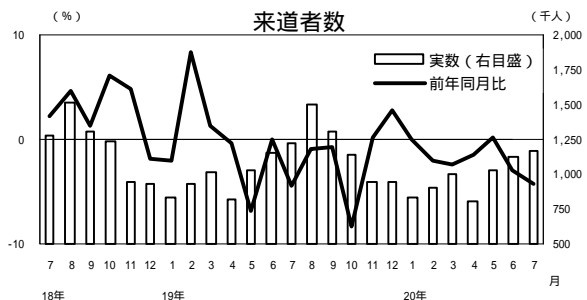
	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	11.7( 0.0)	0.2( 1.9)
製造業	36.1( 2.0)	8.8( 2.6)
非製造業	0.8( 1.2)	5.7( 4.4)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きとなっている。

来道者数は、5月は札幌を中心とする道央地域への観光客が堅調だったことから前年をわずかに上回った。しかし、6月、7月は、札幌近郊への観光客の入込みは底堅いものの、航空機会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少などもあり、前年を下回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

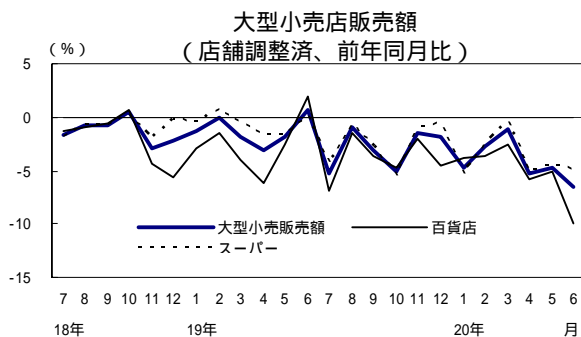
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、前月の気温が高く、春物商材が前倒しで動いていた反動もあり、衣料品、身の回り品ともに振るわず、飲食料品も低調だったことから、前年を下回った。5月は、ワンピースや紳士向けのカジュアル衣料は動きがあったものの、衣料品全体、身の回り品は振るわず、飲食料品も低調だったことから、前年を下回った。6月は、前年は6月末だったクリアランスセール初日が今年は7月になったことに加え、セール前の買い控えもあり、衣料品などで振るわず、12か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、7月の売上高は、札幌地区で前年同月比0.1%減、札幌を除く北海道地区で同5.8%減となっている。

スーパーは、肉や野菜、米などの飲食料品の動きは堅調だったが、天候の影響もあり、衣料品、身の回り品が振るわず、全体としては前年を下回った。

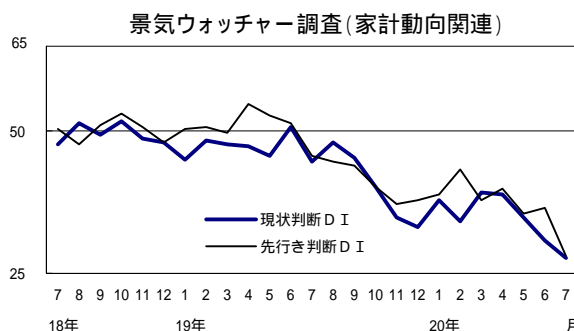
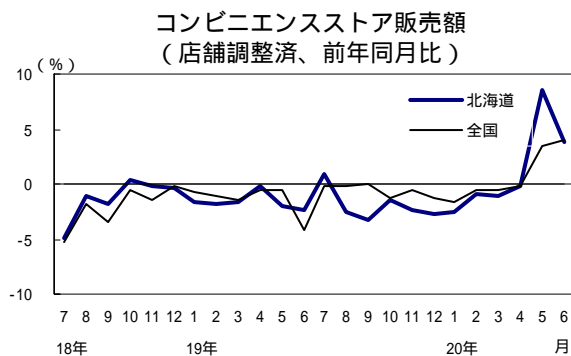
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「国内ツアー客の動きが良くない。地元大手建設業の倒産もあり、地元の集客も悪い。アジア人観光客も良くなく、夏休みの家族個人旅行だけがまずまずである(観光型ホテル)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	3.1	2.7	2.9	5.5
百貨店	4.2	3.9	3.3	7.0
スーパー	2.5	2.2	2.8	4.8
コンビニ	1.7	2.2	1.5	4.1
景気ウォッチャー	45.9	36.2	37.1	34.9

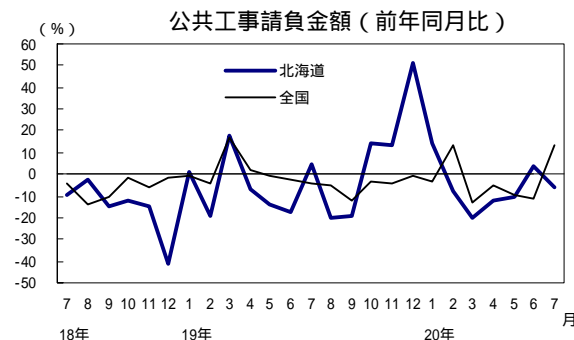
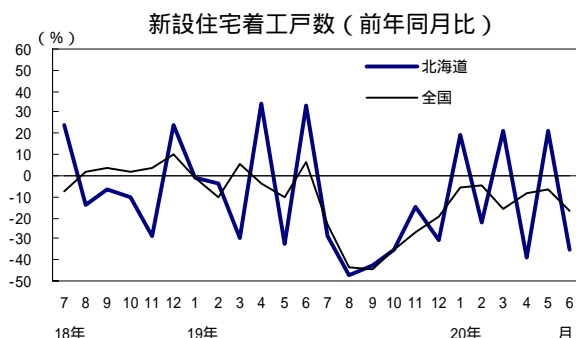
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。



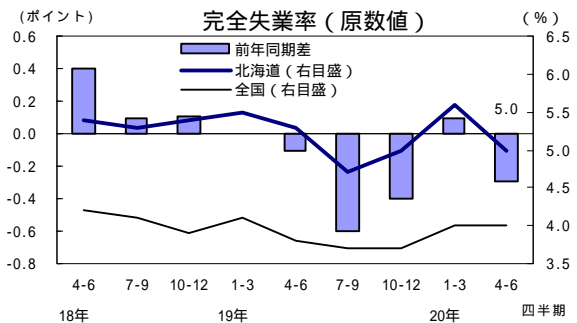
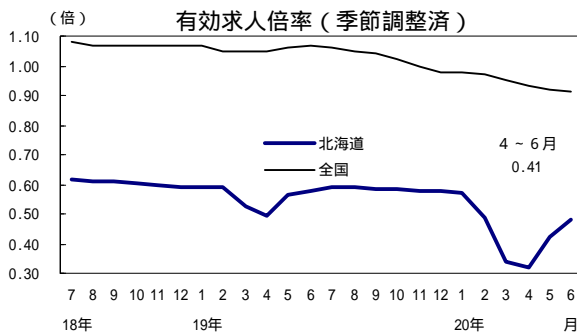
### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。

平成20年2～4月の求人倍率の低下には、北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

「売上を作る人材、経費、無駄を軽減できる管理系の人材の需要は増えているが、採用基準は以前にも増して高く、かなりのスキルを持つ人材でなければ、なかなか採用に至らない（人材派遣会社）」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「募集広告の売上が前年から約2割の減少となっている。大手派遣会社からの募集広告が大きく前年を下回っている（新聞社 [求人広告]）」など「悪くなっている」とする回答も多くみられた。

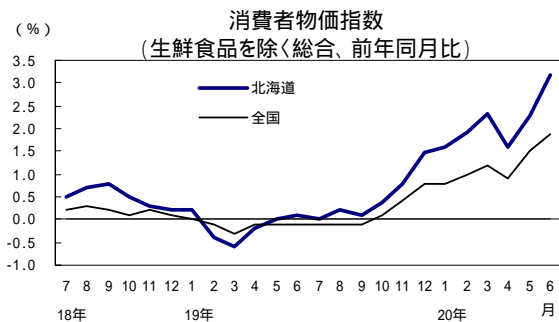
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

7月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	138	132	168	187	72
(前年比)	23.2	0.0	5.7	8.7	38.5
負債総額	464	816	700	440	252
(前年比)	18.2	51.6	40.6	2.0	138.0



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・洞爺湖サミットの交通規制強化を契機に、団体客、個人客共に大幅に落ち込んでいる。海外客はまずまずで推移しているが、来客数が前年を下回るのは確実である（観光名所）。

<先行き>

・建築業界を取り巻く環境が悪化しているなか、金融機関の融資姿勢も厳しくなっていることから、秋口にかけて、道内経済が大きく落ち込むことが懸念される（輸送業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

